



### モノづくりのまち大田

東京都大田区は、明治末期に近代工業が発展してから現在に至るまで、日本の工業を中心となって支え続けてきた。従業員数が20人未満という比較的規模の小さい工場が集積しているのが特徴である。そういった中小工場で養われてきた「モノ」や「ワザ」の魅力を引き出し、モノづくりとまちづくりの両面から大田のまちの将来像を構想することが本プロジェクトのコンセプトである。

### 大田クリエイティブタウン研究会

横浜国立大学（都市計画研究室）、首都大学東京（文化ツーリズム領域）、東京大学（都市デザイン研究室）の3大学と大田観光協会から成る「大田クリエイティブタウン研究会」として、2009年から工場調査やイベント等を行っている。2012年2月には工場公開イベント「おおたオープンファクトリー（以下OOF）」を初めて開催した。

2012年度は住工混在の実態を探るため、工場と住居が一体となった建築「工場町家」の調査を行った。9月からは工場の組合である工和会共同組合との協働で第2回OOFを企画し、12月に開催した。

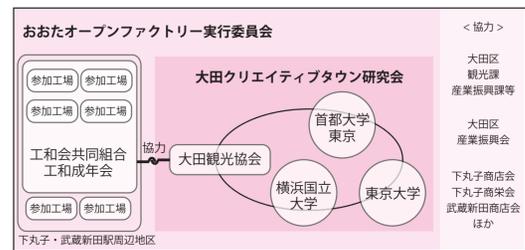
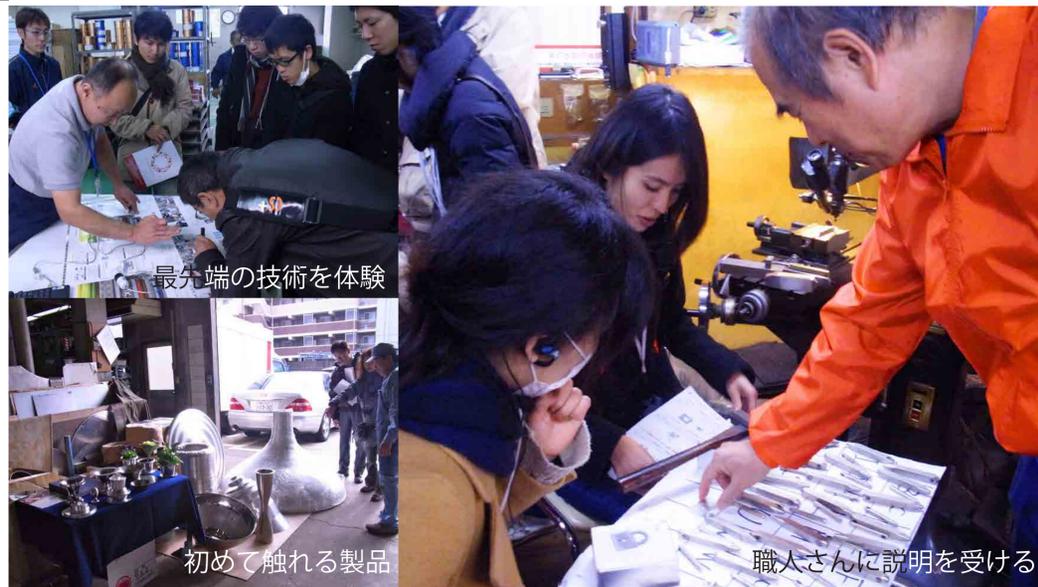


▲工場町家調査

### おおたオープンファクトリー開催

オープンファクトリーとは、エリア・期間を限定して行う、複数工場の同時開放による工場見学とそれに伴うまち巡りのイベントである。現在、多くの町工場が後継者確保、住工の相隣関係の維持、デザインと技術のマッチングなどの課題を抱えている。そこで地域住民や観光客らが町工場に近づききっかけづくりをすることで、モノづくりのまちを地域内外にアピールし、産業観光の活性化とエリアプロモーションを狙う。

2011年度のプロジェクトメンバーで開催した第1回OOFへの反響を受け、2012年12月1日に第2回OOFを開催した。東急多摩川線の下丸子・武蔵新田駅周辺エリアの27社が参加し、約1500人が来場した。実行委員会では各工場に担当学生が付き、工場見学の方式やまち巡りツアーの企画、グッズのデザインなどについて話し合いを重ね、それぞれの工場の特徴に合わせたイベントコンテンツを用意した。工場見学の形態を第1回と異なるものにしたほか、様々なツアーや子ども向けのスタンプラリーの実施、展示・回遊拠点の設置など、第1回にはなかった新たな試みにより、今後への可能性や課題を発見できた。



#### 2nd OTA OPEN FACTORY MAP



### 今後に向けて

▼2012年度の活動年表

- 4
- 5 現地見学  
工場町家調査  
OOF企画検討
- 6
- 7 月1ペースで  
蒲田周辺にてMTG
- 8
- 9 OOF実行委員会始動
- 10 実行委員会会議  
工場との打ち合わせ  
企画担当ごとの打ち合わせ
- 11
- 12 第2回OOF開催
- 1
- 2 OOF振り返り
- 3

2013年秋 第3回OOF開催予定!!

2012年度の活動で工場との連携が強まったことに加え、近隣商店街へのOOFの周知などにより、更に地域全体での広がりのある活動への可能性が感じられた。2013年度は昨年から行っている工場町家調査のまとめと共に、第2回OOFの振り返りと次回OOFの企画を進める予定である。

